

もっともっと水道水を

環境にやさしく、飲んで健康、使って便利な
川西市の水道水

普段、私たちが何げなく使っている水道水。じゃ口をひねれば、当たり前に出てくる水ですが、そのまま飲める国は何力国あるか知っていますか？ 厚生労働省の調査によると世界196カ国あるうち、水道水をそのまま飲むことができる国は日本を含めて12カ国しかありません。水道水をそのまま飲めることは、本当に貴重なのです。それでは、川西市の水道水は、皆さんのご家庭や学校、職場などにどこから供給されているのでしょうか。一緒に見ていきましょう!!

川西市の水道水は、どこから供給されているの？

久代浄水場と多田浄水場の2カ所で水道水は作られ、供給されています。

久代浄水場



久代浄水場は、川西市が運営しています。国道176号沿いで市立川西南中学校の隣に位置しており、川西市全給水量の14%にあたる南端地域に水を供給しています。ここで作られる水道水は、加茂と久代地域の地下からくみ上げられる地下水を原水としています。水温は安定していて、夏は冷たく冬は少し温かい水に感じます。

多田浄水場



多田浄水場は、兵庫県企業庁が運営しています。多田院の主要地方道川西篠山線（県道12号）に隣接した場所に位置しており、川西市全給水量の86%にあたるJR宝塚線（福知山線）より北側の地域と、近隣他市町に水を供給しています。ここは、猪名川を原水としており、上流に^{さかのぼ}溯ると、一庫ダムへと続き、^{ちみょうこ}知明湖に辿りつきます。

猪名川ってどのような川なの



多田浄水場の原水である猪名川は、兵庫県南東部を流れる川で、一級河川です。
延長43・2キロメートルで川辺郡猪名川町の大野山を水源としています。ここから流れ出した水はまわりの水を集め、やがて川となり、渓谷を下っていきます。そして兵庫県・大阪府の市や町を流れ、箕面川や千里川などのいくつもの支川と合流し、神崎川と出合うところまでを「猪名川」と呼んでいます。また、猪名川の流域の市町には約180万人が住み、川の水は生活用水・工業用水・農業用水として皆さんの暮らしを支えています。